

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500147		
法人名	有限会社 やすらぎ		
事業所名	グループホーム コスモス		
所在地	滝川市屯田町西1丁目2番8号		
自己評価作成日	平成28年 2月 23日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0177500147-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28年 3月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、医師・看護師との連携を強化しターミナルケアを実施しております。利用者様やご家族様が安心して過ごす事の出来る環境を整え、個々の能力に応じて柔軟に対応できるよう努めております。利用者様の個性や認知症の状態及び種類、身体状況等を全職員が把握し、介護理念である「人は人として人らしく」をモットーに、他職種が連携しあい利用者様を支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路のバス停に近い、広い敷地に建つ2階建て2ユニットのグループホームです。6年前に以前の場所から新築移転しています。地域連携に力を入れ、ホーム敷地内でのラジオ体操や花火大会を開催して地域の方を招いたり、代表者や職員が認知症サポーター養成講座の講師をしています。また、実務者研修の実習生も数多く受け入れています。家族との関係では、毎月、介護計画の目標について話し合いを行い、ケアプラン更新時には要望書も得て、共有しています。毎月、写真をふんだんに載せた「コスモス便り」を家族に送付するなど、信頼関係を築いています。職員会議での意見交換や、業務外での懇親会、職員旅行などで協力しやすい関係を作っており、職員同士のコミュニケーションも良好です。また、職員は多くの外部研修に参加しています。ケアマネジメントの面では、介護計画の更新にあたり利用者や家族の意見を聞き、毎月、短期目標の詳しい評価を行っています。日々の記録も介護目標に対する内容を記載しています。災害対策の面では、夜間対応、地震対応などの訓練も計画的に実施され、近隣住民との協力体制を築いています。外出支援の面では、年間行事で市外の様々な場所に出掛けて楽しんでいます。利用者や家族が安心して楽しく過ごせるグループホームです。

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します							
項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を理解する為にも、カンファレンス等で再確認しながら共有し実践に繋げています。地域密着型の意義や介護理念の理解が出来ていない職員に関しては研修や事例検討等で理解して頂けるように働きかけております。	開設後から数回、改善を重ねた介護理念の中に「地域と共存共生し」という文言を入れています。介護理念と介護方針を玄関や事務所などに掲示するとともに、カンファレンスで唱和したり、研修で理解を深め、全職員が共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事や施設行事には利用者様も職員と共に参加し、子供を含めた地域の方々が認知症の人を理解して頂けるように働きかけております。また、利用者様は地域の一員として社会活動が出来るように支援しております。	利用者が地域のビールパーティに参加したり、ソフトボール大会を見学しています。ホームの夏祭りや、敷地内で行うラジオ体操、花火大会などに地域の方が多数参加しており、各所から実習生を受け入れたり、様々な地域の行事に職員が手伝っています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動や施設行事にお互いが参加しあいながら認知症の人への支援の方法やふれあいを通じて、ご理解をして頂けるよう働きかけております。また、認知症サポーター養成講座やいきいき体操の活動を行っております。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回運営推進会議を開催しております。現在の状況や今後の予定、改善してほしい事等を話し合い、運営推進委員の意見を参考に、サービス向上に努めております。	会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員や、町内会役員、民生委員、複数の家族の参加を得て、防災や事業計画、外部評価、行事などをテーマに活発に意見交換しています。議事録を全家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市とは密に連絡を取り合い、助言を頂いたり、方向性を相談しながらサービスの取り組みを行っております。包括支援センターが開催する研修等にも積極的に参加し協力関係を築いております。	市には困難事例などの相談を行っています。また、市のサービス事業者連絡会で情報提供を受けたり、ホームで認知症サポーター養成講座を受託しています。法人の本部長が市役所の出身者であり、市と連携しやすい関係にあります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や虐待防止委員会を設置しケアの実践に役立てております。また、内部研修、外部研修の参加を職員へ促し知識を深めております。どのような事が身体拘束なのか、カンファレンス等で話し合い具体的な行為を正しく理解できるよう取り組んでおります。	身体拘束を行っておらず、介護方針の中に抑制の撤廃を掲げています。また、定期的な勉強会で、禁止の対象となる事項を資料を用いながら確認しています。業務の中でも身体拘束に該当しないか、常に注意しています。玄関は日中は施錠せず、自由に出入りが出来ます。	
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加促しを行い、参加できなかった職員に対しては研修に行った職員がフィードバックするよう努め、全職員が学び理解するよう働きかけております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性がある利用者様やご家族様がいない利用者様には他職種連携し、成年後見人制度の利用を活用し支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様と面談の機会を設け十分な説明と理解を求めた上で納得して頂き、契約及び解約をしております。また、改訂時は全利用者様ご家族に説明させて頂き承諾を得てから改訂しております。いつでも疑問点を応えられる旨を説明し安心に繋げております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に話し合う機会を設け、ご意見やご要望を聞き運営に反映させるように努めています。ご面会時やケアの要望書にてご意見やご要望をお聞きする事もあります。	家族とは毎月、介護計画の目標について話し合いを行い、ケアプラン更新時には要望書も得ています。話し合いで得られた意見は利用者毎の「支援経過」に記載し、職員間で共有しています。毎月「コスモス便り」を家族に送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの時間帯を利用したり、個別に意見や提案を聞き、運営に反映させる事が出来るように努めています。	職員は毎月のカンファレンスで活発に意見交換しており、管理者とも随時相談することができます。職員同士の懇親会も開催しています。職員は虐待防止や研修、行事、装飾などの委員会に所属し、業務を分担し、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況や能力、勤務状況を把握し、また、本人からも職場環境や条件等の意見や要望を聞き取り、働きやすい環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内外の研修への参加を働きかけ、勤務時間の調整や費用負担等を検討しています。内部研修については、職員から「どんな研修をしたいのか」を聞き取り、充実した研修内容となるよう努め、職員一人一人のスキルアップを目指し、サービス向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修でのグループワークや懇親会等で親睦を深め、意見交換等を行い他施設との連携を強化しております。また、他施設見学に行ったり、来て頂いたりして交流しサービス向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い、受容と傾聴を心掛け馴染みの関係づくりに努めています。言葉で伝えられない方もいらっしゃいますので表情や行動から思いをくみ取り支援しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談にいらした時から契約までの期間で、十分に時間をかけ不安や要望を聞き取っております。その方のサービスの方向性を決める為にも重要な事ですので、言葉に出来ない思いは要望書を送付し記入して頂いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様からニーズを聞き取ることや表情や態度・行動から感じ取ること、要望書での確認等を行いご本人様、ご家族様、他職種連携しながら対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人一人が介護理念を理解し、共生共存に努めています。利用者様と一緒に過ごす時間を大切に、馴染みの関係を築けるように支援しております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と密に連絡を取り合いながら、利用者様支援に努めております。四季折々の行事や誕生会・お祭り等、ご家族様の時間が許す限りの範囲の中で参加して頂き情報を共有しながら支援しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様から情報を聞き取り、出来る範囲で支援しております。	数名の利用者に昔の友人や知人が来訪しており、友人とクラス会に出掛ける方もいます。ホームの敷地でラジオ体操を行い、地域の参加者と馴染みの関係になっています。馴染みの店への買い物も支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入し、利用者様同士が楽しんで行事やレクリエーション、談話を行える環境作りに努めております。また、利用者様同士、居室でお話できる環境を整え対応しております。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事の案内等を送付し参加を呼び掛けています。その際に必要に応じて利用者様の状態やご家族様の近状を聞き、継続し関係を保っております。また、電話でのフォローも行っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向や要望を聞き取り、カンファレンス等で話し合い把握し支援しております。言葉で伝える事の出来ない方は、表情や行動、ご家族様の意向を確認し支援しております。	短期目標を作成する際に本人や家族の要望を詳しく聞いています。3ヵ月毎に課題分析シートを作成し、個々の「どんな人？」シートで、生活歴や希望を継続的に把握しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、ご本人様やご家族様、ご友人、他職種等からの情報や生活歴を聞き取り、ファイルに綴り、職員間で情報を共有し把握する事でサービス向上に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々記録を残し、カンファレンスで話し合い他職種連携しながら現状の把握に努めております。ご本人様らしい生活が継続して送るためには大切な過程ですので全職員で把握するように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様から要望を聞き取り、職員(担当者)や他職種連携しながら、様々な意見を参考に、ニーズに沿った介護計画を作成するよう努めております。	毎月、短期目標の実施状況や状況報告書を作成し、本人や家族の意見も反映して3ヵ月毎に介護計画を見直しています。日々の介護記録に短期目標が記載され、その日の実施内容を記載しています。一方、モニタリング表の評価欄の記載はやや明確ではありません。	モニタリング表において、短期目標の達成度合いや、目標の「継続」または「変更」などの是非、その理由などがより分かり易く記載されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が把握できるように個別記録の様式を工夫し記録している。記録した内容はカンファレンス等で話し合い、その都度、介護計画の見直しや対応の仕方等を検討しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様からニーズを聞き取ることや表情や態度・行動から感じ取ること、要望書での確認等を行いご本人様、ご家族様、他職種連携しながら突然の事案でも柔軟に対応できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や包括支援センターの方々等と連携をとりながら資源の把握に努め、個々の利用者様に合わせた活動等を取り入れ支援するように努めております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様も意向を確認し主治医を決めております。医師・看護師と連携し情報を共有しながら、適切な医療が受けられるように支援しております。	2名の方が協力医による往診を受け、他の利用者は個々のかかりつけ医に通院しており、ホームで送迎しています。受診内容は利用者毎の「受診報告書」に記録し、「申し送りノート」で共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との情報交換や担当者会議で情報の共有化を常に行っております。受診時には受診報告書を記録し全職員が把握できるよう努め、利用者様が適切な医療を受けられるように支援しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の不安や負担をサポートし、病院関係者にはご本人様の情報提供を行い早期に退院できるよう支援しております。退院調整会議を開催し、入院時の状況や退院後の生活等に対する注意点の確認も行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約の段階から終末期に向けた話し合いを行っております。その時々「思い」を大切にしながら柔軟に対応し信頼関係をしっかりと築き、説明と同意を繰り返し終末期支援に取り組んでおります。	重度化した場合の対応について、継続的な医療行為が必要な場合は入院となり、短期的な対応で可能な場合はホームでできる範囲の対応を行う旨を利用開始時に説明しています。看取りに関して、協力医による勉強会を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に緊急時対応の確認をし、必要であれば勉強会を実施しております。また、普通救命講習を定期的に受講し急変に備え対処できるようにしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々との協力体制を強化しております。年2回の避難訓練や図上訓練、講習会には全職員、地域の方々、運営推進委員が参加し、様々な状況を想定しながら訓練を行い協力体制を築いております。	年2回、火災および地震対応の避難訓練を消防署や地域住民の協力のもと行っており、昨年度は夜間対応の訓練も行っています。職員の救急救命訓練も計画的に行い、災害時に必要となる備蓄品も用意しています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活や性格、生活歴、認知症の状態や種類に合わせ柔軟に対応し、その人に合った支援を行っております。	利用者への呼びかけは「さん」づけを基本とし、家族の希望するびかけを行うこともあります。対応で気になる点があればその都度指導しています。人格の尊重やプライバシーに関して、外部研修や勉強会で確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫や閉ざされた質問ばかりではなく開かれた質問を行っております。理解力が低下している利用者様には選択して頂けるような質問を行い自己決定を大切にしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々の利用者様のライフスタイルを尊重し、日常生活におけるすべての事を個々に合わせ対応しております。入浴や食事の時間は決まっておらず、その日その時に利用者様が希望したライフスタイルを支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着る服やパジャマは利用者様に選択して頂き情勢利用者様には希望を聞きお化粧を施す等の支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々好みを把握し出来る限り状況に合わせた食事をして頂いております。盛り付けや色どりの工夫をして目で楽しめる食事や四季折々の食材を使用した食事を心掛けております。利用者様と一緒に調理や準備、後片付けを行い楽しんで食事が出来る環境作りに努めております。	1日3食のうち2食分の食材が食材会社より提供され、各ユニットでアレンジし独自のメニューを加えています。下ごしらえや味付け、盛り付け、後片付けなどを利用者が手伝っています。誕生日には希望を聞いて好きなものを提供し、ホームの畑で採れた野菜も食卓に上っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に目標の水分量をせていいております。また、その時々々の体調等により、看護師と相談し連携しながら柔軟に栄養状況や水分量を変更し対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛け等の実施で利用者様の口腔ケアに取り組んでおります。義歯を使用している利用者様には毎日、職員が預かり消毒を行い、必要時には歯科受診を促しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様個々の排泄能力や排泄習慣、パターン等を把握しトイレやポータブルトイレを使い分けております。オムツを使用している利用者様は羞恥心に配慮した対応を行い、ご本人様が負担に感じないように自立に向け支援しております。	介護記録で全員の排泄状況を把握し、パターンに沿ってその人に合った声掛けや介助を行っています。トイレに誘導する場合は、耳元で、直接的な表現を避けるなど羞恥心に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便状況を確認し医師・看護師と連携しながら便秘予防を行っています。食物繊維の多い食事やおやつで調整し、個々の利用者様に合わせた運動を取り入れ取り組んでいます。主に健康体操を取り入れております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴時間や日にちの設定はありません。希望する時間や曜日で入浴して頂いております。1週間に2～3回入浴が出来るように働きかけております。	概ね午後の時間帯で各利用者が週2～3回の入浴をしており、希望があれば午前中や夜間の入浴にも対応しています。入浴を拒む場合は声掛けを工夫し、入浴に繋げています。基本的に同性介助とし、入浴剤を使ったり、湯加減を調整しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、個々の状況や状態、ライフスタイルに合わせた支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師と連携しながら全職員が把握できるようにカンファレンス等で話し合い理解できるように努めております。他職種、情報共有を行い効果や変化等を確認し合うよう努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割支援や外出、外食等の支援をしております。利用者様が居室や施設内に閉じこもる事がないように役割や興味・趣味等を聞き取り対応しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の意向を尊重し要望を聞きながら外出支援を行っております。個々の外出支援をご家族様と協力しながら実施したり、施設行事として遠くまで出かけるなど楽しんで頂ける支援を行っております。	日常的に周辺を散歩したり、スーパーや農産物直売所に買い物に行っています。かかりつけ医への定期的な通院もあります。年間行事では、砂川市でのリング狩り、赤平市のランフェスタ、芦別市のサル山見物、旭山動物園見物など、遠方にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、利用者様の能力に応じてお金を所持して頂き、個々に買い物支援を実施しております。また、施設内に自動販売機を設置し、希望者には自分で購入できるような環境作りを行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の意向や、職員の声掛けにより支援しております。年賀状や暑中見舞い等の支援も実施しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる装飾や利用者様の作品を展示し住みやすい空間になるよう配慮しております。また、音や光、温度や湿度には細心の注意を払い対応しております。	居間兼食堂が中央にあり、窓が多く明るい造りで、貼り絵などの作品や季節の装飾が飾られており、電子ピアノやゲームなど楽しめるものも配置しています。ペットの猫が利用者の癒しになっています。温度や湿度、明るさも適切に保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が座る場所を配慮しトラブルが少なくなるように配慮していたり、施設内外にベンチを設置し自由に過ごせるよう配慮しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人様やご家族様にお話しし以前から使用している使い慣れた物を持って来ていただいております。なじみの物を使用する事により環境の変化があっても安心して過ごす事が出来るように支援しております。	居室にはベッドやたんす、仏壇、椅子など、利用者様が馴染みの家具を持ち込んでいます。壁にはカレンダー、時計、賞状などを自由に飾り、その人らしい部屋になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや長い廊下での歩行訓練や歩行バーでの訓練等が出来るように機能維持・向上を目指し職員見守りのもと安全に実施しております。		